

施設栽培モモ「日川白鳳」の開花促進に有効な資材の使用法

[要約] モモ「日川白鳳」の開花促進には加温開始時に液肥を散布または塗布することが有効であり、7.2℃以下の低温遭遇時間 800時間で処理した場合、1000時間に達してから加温した場合とほぼ同等の日数で開花する。希釈倍率は2～4倍程度がよい。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

資料名：平成9、10年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

モモの早期出荷のためにはできるだけ早い時期に加温した方がよいが、あまり早い時期に加温すると開花不良や不揃いを生じたり、開花までの日数が多く必要となる。そこで、芽の休眠を打破し、開花を促進する薬剤を検討した。

[成果の内容・特徴]

- ① 7.2℃以下の低温遭遇時間 800時間で、液肥を処理すると、1000時間経過後に加温した場合とほぼ同等の日数で開花に至る（図1）。
- ② 液肥のモモ樹への処理方法として塗布と散布との間に開花率の大きな差はない。また、処理濃度も2倍と4倍の間に大きな差はない（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- ① 石灰硫黄合剤などのアルカリ性薬剤と絶対に混用しない。
- ② 本情報は液肥「スーパークロロゲン」を使用した場合の成果である。
- ③ 本剤は硝酸態窒素、アンモニア態窒素を合計で6%、その他にリン酸、加里及び数種の微量元素を含む液肥であり、4倍液を10aあたり200ℓ散布した場合、窒素投入量は3kgとなる。したがって、通常施用する施肥量もそれを勘案した量を施用する必要がある。

[具体的データ]

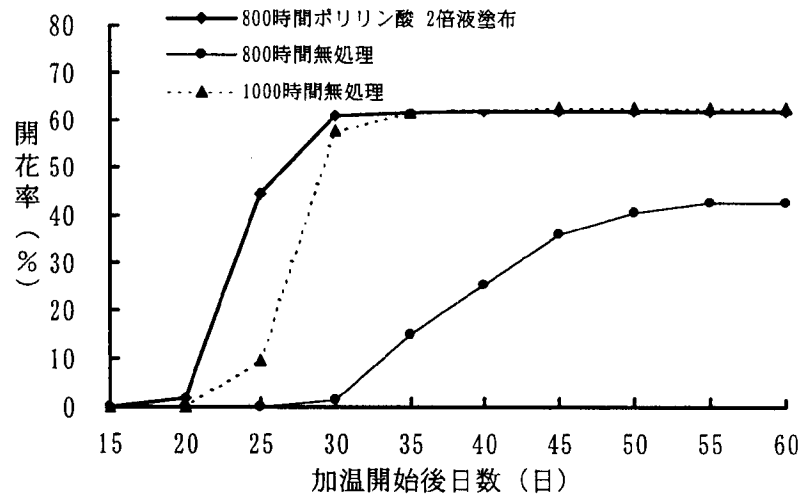


図1 加温前の 7.2℃以下低温遭遇時間及び液肥の塗布とモモ「日川白鳳」の開花率 (1997)

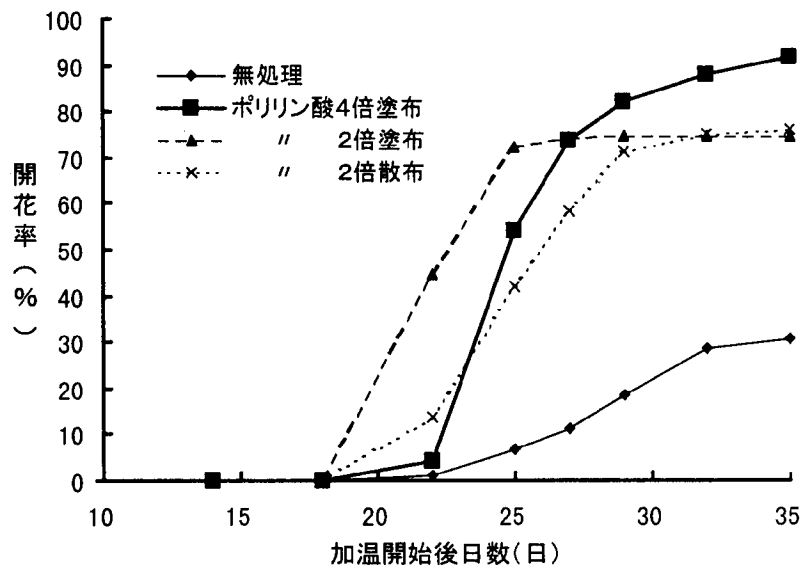


図2 液肥の処理濃度、方法とモモ「日川白鳳」の開花率 (1998)

[その他]

研究課題名：施設落葉果樹の新作型・栽培法の開発

予算区分：県単

研究期間：平成10年度（平成9～13年）

研究担当者：林田誠剛、森田 昭

既発表論文：なし